

環境科学部

環境建築デザイン学科

Department of ENVIRONMENTAL ARCHITECTURE DESIGN

持続的発展可能な都市、地域を創生するために、
景観、防災、資源、エネルギーなど広い視野から
建築デザインを学びます。



母国インドネシアと日本を結び

環境や社会と向き合いながら創造できる建築家に。

高校卒業と同時に、子どものころから憧れていた日本へ。京都、大阪での2年にわたる日本語学習中に滋賀県立大学の存在を知りました。自分の家族や母国にも役立つ仕事に就きたいと考えて建築学を選びましたが、つくるだけでなく、つくったものが社会とどうかかわっていくかという視点で学べることが志望の大きな動機となりました。設計の過程を実践的に経験できる設計演習を中心に、景観計画や建築環境工学など、環境を中心とした授業、またデジタルデザインを探索できる建築デジタルデザイン基礎など多彩に学んできました。多くの課題をこなす過程で、限られた時間の使い方や、そのなかで最大限のパフォーマンスを発揮するためのスキルも身についたと考えています。自分の限界を知り、規律をもって前進することで大きな自由を手にすることができたと確信を持つことができました。将来は設計士としての独立をはじめ、竹を建築素材としたビジネスモデルによる起業を通じ、日本と母国、世界を結びながら、環境や社会という視点で創造できる建築家になりたいと考えています。

環境科学部 環境建築デザイン学科3年生

Vincent Sebastianさん／私立 Don Bosco 3 High School（インドネシア）出身

◆アドミッションポリシー

環境建築デザイン学科では、持続可能な社会の建設のために、建築学を基礎に、建築を巡る環境や地域が抱える問題を発見、理解し、解決する能力を有する人材を育成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ①高度な専門知識を身につけるために必要な数学、理科、英語、国語、地理歴史・公民の基礎学力を有する人（知識・理解）
- ②環境建築デザインや地域社会の創造に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人（関心・意欲）
- ③都市、地域、景観、防災、資源、エネルギー、世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協調する力を有する人（協働性）
- ④見出された問題に対して論理的に思考し、その解決に向けて創造する基礎力を有する人（思考力・判断力・表現力）

◆学びのポイント

建築・都市が大好きな粘り強い若者というのが本学科の学生像で、琵琶湖の辺という恵まれた環境を余すことなく勉学の糧とし、旺盛な行動力をたずさえてキャンパスライフをおくっています。琵琶湖周辺でのフィールドワークをかさね、建築・ランドスケープ作品を実際に建造したり、周辺地域のまちづくりに積極的に取り組んでいます。世界の建築・都市デザインの動向にも敏感で、アジアの都市・地域環境の創造につながるリサーチも手がけるなど、活躍の場は大きくひろがっています。学生の自主的活動が活発なことも特色で、学生組織の1つ「談話室」では頻繁に講演会を開催するなど、日常では得られない刺激と知識の習得に努めています。世界的に活躍する教員集団は、学生のセンスに磨きをかけることを指針に教育・研究を実践しています。

Point 1

幅広い「環境建築デザイン」から、得意分野を見つけよう

本学の建築学科は、「建築計画・設計」「造園・ランドスケープ」「都市・地域計画」「建築史・空間論」「環境工学」「建築構造・安全防災」など、広範な分野から成り立っています。多彩な科目が開かれており、誰でも得意分野を見つけることができます。



Point 2

実際に身体を動かして、体験をもとにイメージを組み立てよう

環境建築デザイナーになるためには、幅広い素養を身につける必要があります。講義や書物からの知識のみでなく、現場での体験をもとに学ぶことが必要です。そして、複雑な条件や要求をひとつの空間・イメージにまとめるトレーニングが「演習」です。

Point 3

「環境学」という視点から、建築・都市の未来を創り出そう

他大学にはないユニークさは、環境生態学、環境政策・計画学、生物資源管理学といった重要な分野と「共生」し、ともに環境科学部を構成している点です。これからの生活空間・地域環境を考えていく上で、この教育・研究環境はかけがえないものです。



◆学びのステップ〈4年間の学習フロー〉

1年次		2年次		3年次		4年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
計画 Planning	地域環境計画		景観計画	都市・地域計画 建築生産施工	建築法規	環境行動論	
	建築・ランドスケープ・都市の理論と実際を学びます						
デザイン Design	建築一般構造	環境設計I ランドスケープ デザイン	環境共生デザイン	環境設計II サステナブル デザイン論	環境職能論		
	各分野の知識を活かし、空間を創り出す技法を学びます						
演習 Exercise	イメージ表現法 環境フィールドワークI	設計演習I 環境フィールドワークII	設計演習II 地域産学連携実習 CAD演習I	設計演習III 環境フィールドワークIII CAD演習II	環境・建築 デザイン演習 設計演習IV	卒業研究・ 卒業制作I	卒業研究・ 卒業制作II
	ゼミに所属し独自のテーマに取り組みます						
歴史・理論 History Theory		西洋建築・ 思潮史 比較都市論	環境造形論 内部空間論	環境行動論	アジア建築史 環境技術史 日本建築史	文化財・保存 修景論A	
	建築学の体系と基礎知識・基本技術を学びます						
技術 Engineering		構造計画 建築数学・物理	構造力学I	構造力学II 建築環境工学演習	アジア建築史 環境技術史 環境設備		

環境建築デザイン学科 ってこんなところ

本学の環境建築デザイン学科は、工学部ではなく、環境科学部にあります。これは、これまでの工学的建築の枠組みや専門性を越えて、自然と人間・社会との関係や地域に根ざした視点を重視するという理由からです。本学科では、木によるものづくりや東北被災地の復興支援、国際建築ワークショップなど、学外実習・課外活動が充実しています。

環境科学部
環境建築デザイン学科
白井 宏昌 教授

授業
PICK UP

設計基礎演習
図面や模型の作成、プレゼンテーション技法など、設計の初歩を学びます。

〈専門科目の例〉

講義・演習・実験

環境共生論

都市・建築・人間の関係を環境共生の観点から考え、持続可能性を追求していきます。

サステナブルデザイン論

現代において地球環境を考慮した循環型社会を構築するために、建築分野を中心とした様々なサステナブルな計画、デザインの方法について論じます。過去から現代までの都市計画、地域計画、建築デザイン、プロダクトデザインなど具体的な実例や取り組みを紹介しながら講義を行います。

都市・地域計画

都市・農村の生活空間と地域環境の構造的な理解とその方法論、地域問題の解決と持続・再生に向けた計画について論理的かつ実践的な視点から講じます。

環境設計Ⅰ・Ⅱ

住宅や文化施設など建築計画の方法論を概観し、建築の成立過程における計画の理論の意味を論じます。

イメージ表現法

手を使う演習を通して、デザインの原動力となる空間的イメージを2次元・3次元で表現する能力、および基本的な造形力を身につけます。

CAD演習Ⅰ・Ⅱ

建築の設計で多用されているCADシステムについて実際に機器を操作しながら設計の進め方を学びます。

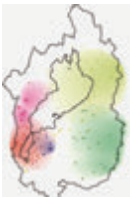
◆ようこそ研究室へ



SAKOTA MASAMI
迫田 正美 講師

環境建築デザイン
迫田正美研究室

建築空間は人間がそこを生きる生きられた環境です。そのような環境を形成しつつ自らも成長する人間の生命システムとしての作用を基礎とする建築理論の研究をしています。研究室では建築作品ばかりでなく、源氏物語や絵画、演劇、学校の校歌など、様々な表現やその体験の分析を通じて人間の空間や風景がどのように形成され、感受されているか、その実像について研究しています。



滋賀県の小中学校校歌に現れた景観要素の地域分布



O. ヴァーグナーによるローイングの画面構成分析



TODOROKI SHINICHI
轟 慎一 准教授

都市・地域計画
轟慎一研究室

都市・集落の空間・コミュニティ・環境の構造とその計画論・まちづくり、特に、生活と空間の関係性に着目した計画論的研究を行っています。「生活史・生業史と空間構造」「地域環境と生活景」「都市計画システムと事業展開」「景観の保全・活用」「人口減少時代の都市・地方と少子高齢社会」「定住環境としての中心市街地・歴史的街区・集合住宅・郊外住宅地・農山漁村」「地域居住と持続・再生」等をテーマとしています。



地方都市・彦根市街地の空間構造の分析や少子高齢時代の都市再生計画



集落景観における生活・生業との関係性や地域環境システムの調査研究

主な卒業研究のテーマ〈2018年度〉

□主な卒業論文

- 屋上に敷設した保水性材料の吸放湿量の簡易評価モデルに関する研究
- ベトナムの窓における歴史と気候風土の影響に関する研究—ホーチミンとダラットを例として—
- オートー・ヴァーグナーの集合住宅における立面構成の変遷に関する研究
- 最適化手法を用いた木造建物の床梁設計に関する研究
- トポロジー最適化手法を用いた木造耐力壁の形態創生に関する研究
- 近江鉄道駅周辺地域における土地利用変化～商業・公共施設に着目して～
- 東近江市五箇荘川並町における街並みの外部境界に関する研究
- 内湖の干拓によって立ち現れた線軸景観—大中の湖干拓地を対象として—

□主な卒業制作

- 栄を照らす換気塔—都市と戯れる広場
- トンレサップ湖底に広がる淡水魚アクアリウム
- 街道再編のエッセンス—道と建築の境界操作～
- 還庵
- 沖縄 多世代住宅—変わらないモノ、住み継ぐカタチ～
- 丘にある祖母の家
- 多感の立体回廊—琵琶湖の自然を感じ、仏教の精神にふれる—
- 島の継—素材と技術で繋ぐ、建築の姿—

CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日

1日のスケジュール

- 8:30 通学
- 9:00 1限:サステナブルデザイン論
- 10:40 2限:環境設計Ⅱ
- 12:10 昼休み
- 13:10 3限:設計演習Ⅲ
- 14:50 4限:設計演習Ⅲ
- 16:30 5限:設計演習Ⅲ
- 18:00 課外活動

1限



自然環境を取り込んだ建築の実例を紹介します。

2限



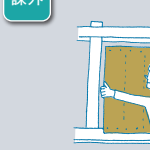
より快適な室内環境を生み出すための実習をおこないます。

3～5限



地球環境に根ざした創造的な建築の提案を模型や図面を通じて実習します。

課外



地域の要望に答える実寸大の建築を制作します。

卒業研究・卒業設計

作品・論文展示会と公開プレゼンテーション・講評会の様子。



設計演習Ⅰ

敷地・機能・行為と空間との関係を理解し、建築造形の基本を学びます。独立住宅の設計では、街並みデザインの観点からも検討します。



設計演習Ⅲ

より高度な計画・デザイン手法を身につけ、総合的な提案力を学びます。



建築環境工学演習

場所による光・音・熱などのあり方の違いを測り、建築との関係を考えます。



イメージ表現法

イメージや思いを様々な材料を使って形にすることが建築の醍醐味です。1年生から2次元、3次元の表現技術を磨くトレーニングを行っています。

設計演習Ⅱ

計画理論を実践的な設計につなげる設計過程を学びます。

◆進路状況抜粋 (2016～2018年度卒業生)

◆就職先

(株)アキュラホーム
(株)穴吹工務店
(株)一条工務店
(株)大林組
大輪建設(株)
(株)楓工務店
(株)岐阜造園
(株)桑原組
(株)高栄ホーム
三陽建設(株)
(一財)滋賀県建築住宅センター
(株)スペース
住友林業(株)
(株)ゼロ・コーポレーション
大和ハウス工業(株)
(株)竹中工務店
タマホーム(株)
東建コーポレーション(株)
中村建設(株)
長谷川体育施設(株)
(株)長谷工コーポレーション
(株)フジ・ホーム
(株)村田製作所
(株)盛本構造設計事務所
矢作建設工業(株)
(株)ようび
(株)Labo
(株)Y's design 建築設計室

◆進学先

滋賀県立大学大学院
京都市立芸術大学大学院
神戸大学大学院
三重大学大学院

◆就職先

京都市
桑名市
徳島県
豊郷町
豊田市
東近江市

取得可能な資格一覧※

- 一級建築士受験資格※1
- 二級建築士受験資格
- 木造建築士受験資格
- 施工管理技士資格※2
- 社会福祉士主任任用資格

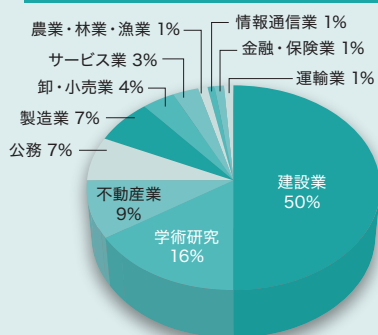
OB & OG Message

環境建築デザイン学科 2016年度卒業
環境科学研究科 環境計画学専攻
2018年度修了
勤務先: 木の家専門店 谷口工務店
廣瀬 奈々さん



勤務先である谷口工務店は、木造にこだわった注文住宅を専門に、設計から施工まで一貫して行う会社です。本社は滋賀県の竜王町という小さなまちにありますが、社員大工数は県下最大を誇り、施工エリアは全国に広がっています。幼い頃から憧れていた住宅設計の仕事に就くべくこの会社を志望しました。大学院では、建築家藤井厚二の代表作であり環境共生住宅の原点とされる「聴竹居」をテーマに研究を行いました。今日のようにエアコンなどの機器の設置が一般的ではない時代に、風・光の制御や住まい方に工夫を凝らすことで快適を求めた住宅を研究することにより、これからの住宅設計に活かせる技術的な可能性を探りました。また県大大学院独自の副専攻である近江環人を履修し、建築を取り巻くまちや地域全体のあり方を学んだことで、より広い視点から建築を考える力を養うことができました。今後はお客様の希望に寄り添いながらも、大学院を含む6年間の知識と経験を生かした独自の視点で、あっと驚かせるような設計を手がけたいと思います。(2019年5月現在)

2016～2018年度卒業生の業種別就職状況



※1 すべての資格は、大学が定める所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります。 ※1 実務経験2年以上必要 ※2 受験資格認定対象者は「基礎数学Ⅰ」、「基礎数学Ⅱ」、「建築数学・物理」のなかから2単位以上履修した者。